

図書館報

Kyushu International University Library Bulletin

vol.
35



九国大図書館マスコットキャラクター
KIULi (キウリ) くん

Contents

- 図書館長からのメッセージ P.2
- 2019年度 図書館の取り組み P.3
- 旅の紀行—大きな船の小さな図書室—
学生におすすめする本 P.4

図書館長からのメッセージ



元号が平成から令和に変わった2019年、世の中の雰囲気もどこか祝賀ムードや華やいた雰囲気が、一時的ではありますが、世の中に漂っていたように思われます。その反面、香港での反政府運動は現在においても混迷の度合いを増しています。

祝賀ムードに乗って何かをするというようなことも、反政府運動をすることも、個人的には何もありませんでしたが、この一年を振り返ってみれば、例年以上に本を多く読んだ一年でした。

その中から興味深かった本として、まずは河村彩『ロシア構成主義』(共和国)が挙げられます。この本では、共産主義の浸透を目指すために、当時のソ連が大眾を教化するための道具としてのデザインという視点から、1920年代から始まる、そしてそれ以降に発展する様々なプロダクトデザインやポスターのデザインに関する詳細な検証がなされています。デザインの検証のひとつひとつが大変多くの示唆に富んでおり、混迷する現代の状況を読み解くために必要なヒントであるともいえ、その意味でも必読だといえます。

二冊目は、荒井裕樹『差別されてる自覚はあるか 横田弘と青い芝の会「行動綱領」』(現代書館)です。この本は、横田弘に何度もインタビューを行ったことがある気鋭の研究者である荒井氏が、青い芝の会の「行動綱領」の成立やその背後の思想を紹介しつつ、横田弘についてその人間像をも含めて描いた珠玉のルポルタージュです。寛容さが社会から失われつつあると言われて久しい今の世の中において、この本もやはり必読でしょう。

三冊目は、ヨゼフ・チャペック『独裁者のブーツ』(共和国)です。先の大戦から終戦までの間、反ナチスを貫きつつ、ナチスを風刺するイラストを描き続け、そして強制収容所に消えたチャペックの風刺イラストに加え、チャペックの関係者らへのインタビューで構成されています。その当時の閉塞感漂う時代の雰囲気の中で、権力者によるプロパガンダに扇動された大眾と、そのようなプロパガンダに扇動されなかった人たちの差は一体何であったのかといった問題について考える際のヒントにもなる一冊でしょう。

現代に生きるわたしたちに必要なことは、閉塞感の漂うような時代だからと諦めてしまうことなく、自分自身により善く生きるために、そして社会をより善いものにしていくために、まずもって自分自身の教養を高めていくことでしょう。教養を高めるためにすべきことは、やはり読書です。この混迷の時代をより善く生きぬくために、良質の本をより多く読み、それらを自分たちの行動の指針としたいものです。

九州国際大学図書館長 松井 貴英

2019年度 図書館の取り組み

学内外を問わず、ビブリオバトルの実践や活動の取り組みとして次の3つの活動が挙げられます。

現代ビジネス学部国際社会学科 ビブリオバトル統一チャンピオン大会



正代ゼミ

1年 加賀 大雅さん 『帰ってきたヒトラー』

ゼミ名	著者・タイトル
正代ゼミ	メンタリスト DaiGo:『最短の時間で最大の成果を手に入れる 超効率勉強法』
松井ゼミ	東 直子:『とりつくしま』
大津ゼミ	東野 圭吾:『ダイイング・アイ』
山田ゼミ	国井 桂:『8年越しの花嫁』
正代ゼミ	早瀬 耕:『未必のマクベス』
松井ゼミ	阪保 正康:『山本五十六の戦争』
樋口ゼミ	湊 かなえ:『告白』
山田ゼミ	横山 泰行:『「のび太」という生きかた』

ゼミ名	著者・タイトル
正代ゼミ	ティームール・ヴェルメシュ:『帰ってきたヒトラー』
大津ゼミ	辻村 深月:『かがみの孤城』
樋口ゼミ	アントワーン・サン・テグジュペリ:『星の王子さま』
山田ゼミ	伊坂幸太郎:『ギャングが地球を回す』
松井ゼミ	パク・ヨンミ:『生きるための選択 一少女は13歳のとき、脱北することを決意して川を渡った』
大津ゼミ	伊坂 幸太郎:『フーガはユーガ』
樋口ゼミ	白田:『府中三徳円事件を計画・実行したのは私です。』

国際社会学科では、全ての1年生にビブリオバトルに参加してもらっています。授業でのこの取り組みは、国際関係学部時代を含め、7年目になります。

例年以上にレベルの高いビブリオバトルが、各クラスで展開されました。そして、7月16日の統一チャンピオン大会では準決勝も決勝もレベルが高く、誰が優勝してもおかしくないといえるほどの質の高い大会となりました。



福智町教育連携・協力協定



この活動も4年目となりました。国際社会学科3年生の田口和浩君、岡祐生君、増田凜さん、2年生の納屋さくらさんが福智町の中学生へのビブリオバトルの指導を頑張ってくれました。

福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」の井上館長から「中学生たちの人生がよい方向へ変わったのではないかと高い評価をいただきました。中学生への指導は参加学生にとってかけがえのない学びの機会となりました。」

学校名	学年	支援日	参加大学生
赤池中学校	2年	8/29, 30	5名
方城中学校	1年	9/25, 26	7名
赤池中学校	1年	11/6	2名

筑後地区高等学校図書委員合同研修会

7月31日に久留米シティプラザで開催された第52回筑後地区高等学校図書委員合同研修会に参加しました。

ビブリオバトル普及委員の佐藤慧さんによる解説、松井館長による本学の教育現場における実践についての講演がなされました。そして、学生3名によるビブリオバトルの実演、ワークショップでは高校生への指導も行いました。

学部	学年	名前	紹介した本
法学部	4年	馬場 涼子	三島 由紀夫 『不道德教育講座』
国際関係学部	4年	高田 恭平	阿月 まひる 『さよなら、ビー玉父さん』
現代ビジネス学部 国際社会学科	2年	西岡 大空	篠田 桃紅 『103歳になってわかったこと 人生は一人でも面白い』

学生達による実演は研修会に参加した生徒はもちろん、引率の先生からも好評で、多くのお褒めの言葉をいただきました。



今後も、学生、教職員、さらには学外のひとたちとの相互交流を、本を通してなお一層促していけるような取り組みを進めていきたいと考えています。

旅の紀行 —大きな船の小さな図書室—

図書館事務室 課長 白井 敏博



豪華客船
ダイヤモンド・プリンセス号

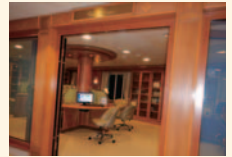


丹頂鶴

旅は、実におもしろい。東京オリンピック開催年の3月末日で定年の日を迎える。家族に“ありがとう”という思いで、ちょっぴり贅沢な旅を計画した。2019年9月1日から9日間、横浜港を夕刻に出航し、北海道釧路・ロシア コルサコフ・小樽・函館に立ち寄り、横浜港へ戻るコースである。この旅を豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号で体験した。

2日目終日航海。船内で過ごすため様々な催しが開催された。海外からの参加は年配者が多い。船内散策中に、図書室を見つけた。洒落た色合いの室内。小説や辞書が本棚に並べられていた。もちろん洋書である。チェス、オセロ、麻雀、将棋等の遊具もあり、下船までに戻せば、誰でも借りることができる。外部に接続する無料Wi-Fiの設備はない。図書室や隣接するネットカフェのパソコンでインターネットを介し情報を得るしかない。唯一外の情報を知ることのできる場所、いわばコミュニティ広場である。これから寄港する地域の今を知ることができる。

3日目。最初の寄港地、北海道釧路港に接岸し下船。釧路市丹頂鶴自然公園で丹頂鶴を見学し、果てしなく広がる釧路湿原を釧路市湿原展望台から一望した。澄み渡った空と雄大な北海道の空気を満喫した。出航の時、岸壁では、フォークソングを歌いながらの見送りがあった。離岸時、別れを惜しむかのごとく汽笛が鳴る。4日目は、終日航海。5日目の早朝、ロシア領に入った。歯舞諸島、色丹島の横を通り、国後島、択捉島の間を航行。国後島は大きい。山麓には冠雪があった。コルサコフ沖で停船。両側面設置のボートを海面に下し、乗船。波は穏やかであり、湾内の岸壁へと進む。上陸後、一路ユジノサハリンスクへ向かった。街並みはきれいであり、教会やかつて日本領であった頃の建物を活用した博物館、戦勝記念公園等を見学した。見学後、沖合に停船している船に戻るボートが強風高波のため、上下左右にかなり大きく揺れ、どこかにしがみついていると、海中に引き込まれそうになる。6日目は小樽。下船後は、NHKの朝ドラ“マッサン”の舞台となった、ニッカウヰスキー余市蒸留所へ。見学後小樽運河周辺を散策。夕刻暴風雨となり、急ぎ帰船、函館へ出航した。7日目の早朝、函館に寄港。接岸はしたが、台風15号が横浜港に接近との情報が入り、最終日に帰港できなくなる可能性もあり、下船せず全速力で横浜港へ戻る進路をとる。結局終日航海となった。函館では、五稜郭公園、TVCMで有名になった八幡坂付近の散策、函館山からの夜景を見ることを楽しみにしていたが、すべてが幻となった。8日目の早朝横浜沖到着したが、入港待ちで停船。夕刻に接岸。燃料、食料を補給し台風を避ける為、離岸し沖で停泊。最終日(9日目)の午前1時、台風がすぐ横を通過。エンジンを動かしたままでの停船であったため、縦揺れのみで横揺れせず、船酔いは免れた。台風は後に激甚災害となった千葉へ。当初朝8時頃の予定が、横浜港に入港できたのは、お昼過ぎとなった。下船後、急ぎタクシーでJR新横浜駅へ向う。途中、交差点の信号機が45度横に首を振っているし、ビルの側面に設置した、大きな看板が道路の隅に落下している光景を目の当たりにした。予約した新幹線の時刻に間に合わず、旅の終盤でドタバタしたが、豪華客船に乗船できたこと、北方4島が見れたこと、コルサコフ沖でのボート乗船時の上下左右+ひねりの入った大揺れ、船上での台風遭遇を体験したことは、生涯忘れることのできないものとなった。妻と娘は、函館行きへの再挑戦の為か、または異なるコースのクルーズ乗船の為か、日々の買い物で500円硬貨のお釣りがあった都度、それを貯金箱に入れ始めた。



船内の図書室



5日目に見学した博物館

追記：今回は記念乗船ということで、2日目の夕食時に私たちの席担当のクルーによる(5~6人)“ハッピーバースデー”の曲で“アニバーサリー”の合唱とチョコレートケーキのプレゼントがあった。(心温まる歓待に感謝。)家族3人珍道中でいまままでにタイ・プーケット、シンガポール、香港、台湾を旅した。現地で見聞きしないとわからない、面白いエピソードがいっぱいある。機会があれば、お話ししたいと思う。60歳、結婚30年を無事迎えられた事に感謝しつつ、筆を擱く。

学生におすすめする本

外国語の学び方：渡辺照宏 著 岩波書店 発行

図書館事務室 課長補佐
宮崎 昭

学生時代、外国語を専攻することになったものの、どう勉強したらいいのかわからずに途方にふけていた時、本屋でこの本を見つけ夢中になって読みました。

著者の渡辺照宏氏は十数か国語に通じた人で具体的な勉強方法を紹介しています。この本に書かれている方法を実践して効果を感じるようになりました。現在外国語の勉強に苦しんでいる学生にはこの本を読んでもらいたい。必ず何らかのヒントがあるはずですよ。

しかしこれだけ役に立つ本なのに残念なことに現在は絶版の様です。現在は名著といえども必ずしもすぐに入手できないものが増えてきています。しかし大丈夫。図書館は何十年も本を収集しているので絶版本も結構あったりします。

皆さんも本屋で見つからない本を図書館で探してみてくださいはいかがでしょうか。

図書館報 Vol.35

2020年3月発行

編集発行
九州国際大学図書館

北九州市八幡東区平野1-6-1

TEL (093) 662-8305

FAX (093) 662-8339